

Pichast ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第201号

ななえ古写真物語 VOL.201

駒ヶ岳秋景

失われる風景

昭和初期か

軍川～東大沼地区



秋は収穫の時季。七飯町ではリンゴやブドウが色づき、窓を開けて車を走らせれば、ネギの香りがやおらと広がってくる。あたりの山々も赤や黄色に染まりはじめているのに気づく。

かつて、この時期になると刈り取られた稲が束ねられ、稲架（はさ）掛けと呼ばれる、横に渡した長い棒に束ねた稲をかけて、天日や自然風にあてて乾燥させる風景が見られたという。その他にも、稲の束を円錐状に積んで、田んぼに点々と並べて乾燥させる二オ（二木）と呼ばれる方法もあった。

まさに、収穫後の「農ある風景」というのにふさわしい光景なのだが、近年においては刈取り機械の進歩もあってか、稲を束ねて乾燥させる手間を省けるようになった。そのため、こういった景色はめずらしいものとなったのだが、風情や人の営みを映す景観が失われたような気がして寂しさを覚える。ただ、これも時代の流れなのだろう。

それでも、小規模ながら、田んぼに稲の束のいくつかを纏めて縛り、穂の部分を上にして並べて乾燥させる「シマダテ」という方法で、風に当てて乾燥させていたり、稲ではないのだが豆などを二オにしているの光景を見つけると、人々が培ってきた経験や智慧といったものが、静かに継承されているような気になり、少し安らいだ気持ちになってしまう。

写真は、駒ヶ岳の稜線の形状から、軍川もしくは東大沼地区で撮影されたものと考えられるものだ。わかりにくい、「馬の背」とよばれるなだらかな部分から煙が上がっているようにも見えることから、時期は、大噴火のあった昭和4年以降ではないかと推測している。ただ絵葉書右上に「駒ヶ岳裾野の秋（北海道大沼公園）」と記されており、北海道立公園となったのが大正11年であることを考慮したら場合、大正期の可能性もある。

写真に写る駒ヶ岳の裾野には、「シマダテ」のような草の束が数多く作られている様子が伺える。これらが稲なのかは、写真では断定できなかった。穂のようなものが見当たらないことや、草丈も長く感じることから「カヤ」の可能性もある。

文献によると、軍川地区では幕末には水田が行われていた記録があり、それ以外にも麦や大豆、稗・粟などが栽培されていたというから、穀類全般の乾燥方法として、天日干しをしていたのかもしれない。仮にこれらが「カヤ」だったとしても、当時の民家の主流は茅葺きで、屋根には大量のカヤが必要になることを考慮すれば、こういった風景が、秋の駒ヶ岳裾野を彩っていたのだろう。

いずれにせよ、今は失われつつある風景のひとつであることには違いない。

8日 夜の博物館第3夜

この日のテーマは「昆虫よもやま話」。講師に道南虫の会の井本暢正氏をお迎えしました。小学校から始めた採集歴は60年。よもやま話と言うだけあって、お話は多岐に亘りました。ライフワークとして、調査研究を続けているオシマルリオサムシのこと、蝶と蛾の区別や地球温暖化と昆虫との関係など、興味深々に耳を傾ける参加者の様子が見られました。間近で標本を観察する時間もあり、質問も多く出ました。いつもなら大人だけの参加者が多い中、この日は小学校低学年の小さな研究者も来て頂き、会場は盛り上がりを見せました。



21日 ジュニア探検クラブ

横津岳に登りました。少し秋の風を感じながら、標高1,167メートルの山頂を目指します。まずは、ばんだい号慰霊碑まで歩を進め、飛行機事故の経緯の説明を学芸員から聞きました。その後はレーダー基地まで、植物や昆虫を見ながら、歩を進めます。昼食をとりながら、眼下に大沼、小沼、遠くには鹿部町や森町もはっきりと見ることができました。神社や湿地、地蔵など多様なものが見られたことも、子どもたちには、新鮮だったようです。



ムシムシパズル

開催中のテーマ展で設置している「ムシムシパズル」は、主に子ども向けで、昆虫や幼虫のパーツをシルエットに合わせて作るものです。水辺で拾った石に着色して作りました。制作段階で、「想像の虫を作ってくれる人がいるといいなあ。」と思っていたところ、就学前の女の子と大人の方がこんな作品を残してくれました。正しい答えも大切かも知れないけれど、こんなほっこりする自由な発想に綻ぶ瞬間をもらった作品でした。



- 1 火
- 2 水
- 3 木
- 4 金
- 5 土
- 6 日
- 7 月 休館日
- 8 火
- 9 水
- 10 木
- 11 金
- 12 土 古文書教室
- 13 日
- 14 月 スポーツの日
- 15 火 休館日
- 16 水
- 17 木
- 18 金 ピチャリ第202号発行
- 19 土
- 20 日
- 21 月 休館日
- 22 火
- 23 水
- 24 木
- 25 金
- 26 土
- 27 日
- 28 月 休館日
- 29 火
- 30 月
- 31 火

※休館日：7日、15日、21日、28日

まちのれきし

町内の古い写真の寄贈を呼び掛けた中の一枚。右は昭和35年の仁山高原の家。一枚の写真から当時の様子がわかる一枚です。



編集後記 ~tawagoto~

デジタル全盛期の現在、フィルムカメラの人気の話題に上がるのは、嬉しい。フィルムは会社により、色の特徴があり、カメラの操作を覚え、光の具合や構図を考えながら撮った写真が、現像やプリントを終え、手元に届く時間が待ち遠しかった。カメラはもちろん、フィルム代と現像、プリント代を合わせると、今はかなり高価らしい。「35（サンゴー）」や大判のブローニーなど懐かしい言葉の響きもそのうち聞かれなくなるのだろうか。

Pichari ~ピチャリ~

第201号

令和6年9月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp